



「学校教育で活用できる
論語章句集」を活用した

論語学習 実践事例集



平成28年3月
岡山県教育委員会

はじめに

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されます。将来を担う子供たちには、様々な社会の変化を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り拓いていく力を身に付けることが求められます。そのためには、一人一人が互いを認め合い、尊重し合いながら自己実現を図り、幸福な人生を送れるようにするとともに、より良い社会を築いていくことができるよう、人と人とが健全につながり合うことがますます重要になっています。

論語には、人と人が健全につながり合い、快適な生活を過ごすための知恵や人間としての在り方や生き方の意識等、子供たちが身に付けておくべき大切なことがたくさん含まれています。

そこで、岡山県教育委員会では、平成26年度、心の教育や生き方教育の充実を図るため、発達段階等にあわせて論語を学校教育に取り入れられるように、平成25年度に作成した「学校教育で活用できる論語章句集」に論語学習カリキュラムを加えた改訂版を作成・配付しました。

この度、論語学習の更なる充実を図るため、県内の各学校園の好事例を収集し、実践事例集を作成しました。本事例集では、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校、中学校、高等学校それぞれの論語学習の取組を掲載しており、各学校園において、学校や地域の実態に合わせて積極的に活用されることを願っています。

平成28年3月

岡山県教育庁義務教育課

目次

1 幼稚園、保育所、認定こども園の事例

事例① 「楷の木集会から生活発表会へ」…………… 3

事例② 「朝のつどいから大舞台へ」…………… 7

2 小学校の事例

事例③ 「日常の取組を道徳につなげる」…………… 10

事例④ 「自分のお気に入りの論語を見つけよう」… 14

3 中学校の事例

事例⑤ 「『現代版論語』をつくろう」…………… 18

事例⑥ 「ことだま百選」…………… 21

事例⑦ 「道徳の時間に論語を活かす」…………… 23

4 高等学校の事例

事例⑧ 「課題解決の根拠に論語を活用」…………… 25

事例⑨ 「論語の自作テキストを作成し、地元小・中学校を訪問」…………… 28

論語学習プラスワン

論語カルタ…………… 31

帰りの会で言葉遊び…………… 31

朝の学習での素読…………… 32

全校朝礼での校長の取組①…………… 33

全校朝礼での校長の取組②…………… 33

学校だより・学級通信での活用…………… 34

中学校生活残り半年の目標を決めよう！…………… 35

学校全体で取り組む論語朗読…………… 35

配布物・掲示物への活用…………… 36

始業式の講話…………… 37

1 幼稚園、保育所、認定こども園

事例① 「楷の木集会から生活発表会へ」

活用場面

全体集会、朝の会・帰りの会、生活発表会

使用論語

- ③ 「こうげんれいしよく 巧言令色、すく 鮮なじん し仁。」
 ② 「おのれ 己の欲せざる所、ひと 人にほどこ 施すこと勿かれ。」
 ⑭ 「れい 礼の用は和をとうと 貴しと為す。」
 ⑰ 「とく 徳は孤ならず必ずかなら 鄰あり。」
 ⑳ 「いまなんじ 今女は画れり。」
 ㉟ 「い 行くにこみち 徑によ 由らず。」

※ 番号は（『学校教育で活用できる論語章句集』岡山県教育委員会）の章句を示す。以下同様

論語使用のねらい

4歳児、5歳児が集う集会になると、にぎやかでなかなか話が聞きにくい雰囲気があり、集団の場が苦手な幼児もいる。そこで、一見難しいと感じる論語を集会の中に取り入れ、園児のチャレンジ精神を刺激し、集中して集会に参加できるようにしたい。そして、みんなで論語を唱える経験を積み重ねることで、言葉や文字に対する興味や関心を高めるとともに、友達と一緒に同じ言葉を唱えることを楽しいと感じさせたい。また、保護者の論語に対する意識も薄かったため、幼児教育を保護者と共に行うという視点から、保護者にも論語のよさを感じさせたい。

活用のポイント

- 寸劇やペープサートによりこの日の論語の意味を伝える。
- 使用する論語は幼児の生活に即したものの、短いもの、理解できそうなものから選ぶ。
- 寸劇は動物を主人公として行う。
- 日常の集会や各クラスでの朗読の成果を、生活発表会の場で披露することで、幼児に自信を持たせるとともに、子供たちの様子から保護者にも論語の良さを感じてもらおうようにする。

取組内容

【「楷の木集会」の進め方】

- 「楷の木集会」と名付けた集会において、4名の職員が順番に孔子先生に扮し、選んだ論語の意味を寸劇で知らせる。
- 男女・クラス・全員など工夫しながら何度も唱えさせる。
- 本日学んだ論語を「巻物」にして各クラスの代表に渡す。それぞれの教室に貼ることで、いつでも見えるようにしておく。朝の会や帰りの会を利用して、各クラスでも論語を唱えるようにする。

【「楷の木集会」】

幼児の活動	指導のポイント
○ 前回の「楷の木集会」で学んだ『礼の用は和を貴しと為す』の論語を朗読する。	・ 指さし棒を使って読んでいるところを示すことで、全員が声を出せるようにする。

- 本日の論語『行くに徑に由らず』を知る。
- 寸劇で意味を知る。

・新しい論語をみんなで唱えることで、興味を持たせる。

◎寸劇シナリオ

○ 場面設定 山に通じる森の中

登場人 (動) 物…シカ・イノシシ・鬼

シカ : 「もうすぐ寒い冬がやってくる。あの山までどんぐりを拾い集めに行って冬に備えよう。それにしても遠いなあ。でもがんばるぞ。」
「よしよ、よしよ。」…
「まだまだだなあ。ここらで、ひと休みしよう。」…
「よし、もうひとがんばりするぞ。」…
「やっと着いた。どんぐりがあったあ。寒い冬がやってくるからたくさん集めよう。このくらいあればいいかな。そろそろ帰るとしよう。」

～帰り道、シカさんはイノシシさんに会いました～

イノシシ : 「シカさん、何をしていたんだい。」
シカ : 「もうすぐ寒い冬が来るから、あの山までどんぐりを拾い集めに行っていたんだ。」
イノシシ : 「そうなのか。ぼくも行かなくちゃ。」
シカ : 「でも山は、すごく遠くて大変だったよ。がんばってね。それじゃあまた。」
イノシシ : 「ええ…っ、山は遠いのか。嫌だなあ。面倒くさいなあ。そうだ。あの岩を突き破って行けば近道になる。ぼくの得意技は『猪突猛進』なのさ。えいやあ。」

～ところが岩陰は鬼の住みかで、ちょうど昼寝をしているところだったので～

鬼 : 「誰だあ。わしの昼寝の邪魔をするのは。何しにここへ来た。」
イノシシ : 「ここを通れば、あの山への近道になるかと思ひまして…。」
鬼 : 「何。近道だと。そんなこざかしいことを考えていては、だめだ。正々堂々と歩いて行くことが大切なのだ。」

イノシシ : 「わかりました。」
「あ～、こわかった。」

～そうしてイノシシさんもがんばって長い道のりを歩き続けて何とか山にたどり着き、どんぐりを集めて帰ることができました。めでたし、めでたし～

○本日の論語を朗誦する。
○論語を「巻物」にして各クラスの代表に渡す。

・子供の意欲を持続させるため、男女別、クラス別、全員など工夫しながら繰り返し、論語を声に出して唱えさせる。
・朝の会や帰りの会を利用して、各クラスでも論語を唱えるよう促す。

【生活発表会】

- ・日常の集会や各クラスでの朗誦の成果を、生活発表会の場で発表する。
- ・孔子役を教員が行い、クイズ形式で園児に質問する形で進める。
- ・保護者にも参加してもらい、園児と競わせることで、園児に達成感や満足感を味わわせる。

園児入場

A先生 「今まで、いろいろな論語をみんなで楽しく勉強してきました。今日は、今まで勉強した論語を孔子先生と一緒に振り返ってみたいと思います。では、みんなで孔子先生を呼んでみたいと思います。」

園児 《孔子先生》

孔子(B先生) 「幼稚園のみなさん、お家の方々こんにちは。子供たち、今日はこれから今まで勉強してきた論語をしっかりと覚えているか試験をするぞ。大人の人たちも昔、中学校の頃かな、論語を勉強したじゃろう。途中でお家の人にも答えてもらうから記憶をたどってくれたまえ。」

「それでは、第1問。」

「巧言令色、鮮なし？」

「おや、今まで勉強してきた論語に？マークがあるぞ。？マークの言葉が何か当ててもらおう。この論語が分かる子供はいるかね。」

「おお、たくさんの子供たちが覚えているようじゃ。」

「では、みんなで言ってみよう。」

園児 《巧言令色、鮮なし仁》

孔子(B先生) 「すばらしい。」

「では大人も子供も全員で唱えてみよう。」

園児 《巧言令色、鮮なし仁》

孔子(B先生) 「すばらしい。では、この調子でどんどんいってみるぞ。」

「第2問」

「？欲せざる所、？施すこと勿かれ。」

「分かる人はいるかな。」

「では、〇〇組の子供たち答えてみよう。立ってお家の人の方を向くのじゃ。全員で唱えるぞ、さんはい。」

園児 《己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ》

孔子(B先生) 「正解じゃ。」

「では、前を向いて、みんなで唱えてみよう。」

園児 《己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ》

孔子(B先生) 「すばらしい。」

「では、第3問。」

「今女は？」

園児 《今女は画れり》

孔子(B先生) 「次、第4問。」

「礼の用は？」

「これは、後ろの大人の人に尋ねるぞ。」
「分かる人はいるかな。うーん、誰もいないようじゃ。子供たちいかがかな。」
園児 《礼の用は和を貴しと為す》
孔子(B先生) 「すばらしい。子供たちの記憶力はすばらしいぞ。」
「では、大人も一緒に唱えてみよう。」
園児・保護者 《礼の用は和を貴しと為す》
孔子(B先生) 「では、第5問。」 **「行くに?由らず。」**

園児 《行くに徑に由らず》
孔子(B先生) 「さあ、いよいよ最後の問題じゃ。」 **「徳は孤ならず?。」**

「分かる人はいるかな。」
園児 《徳は孤ならず必ず鄰あり》
孔子(B先生) 「正解じゃ。」
「みんなで唱えてみるぞ。」
園児・保護者 《徳は孤ならず必ず鄰あり》
孔子(B先生) 「すばらしい。さすが〇〇幼稚園の子供たちじゃ。孔子先生は閑谷学校にいつもいるので興味がある人は遊びに来るとよいぞ。また、〇〇幼稚園にも来てみんなと一緒に勉強をするぞ。では、その時までさらばじゃ。」
A先生 「孔子先生から教えていただいたことをよく覚えていました。これからも勉強を続けていきましょう。これで楷の木集会を終わります。」
園児退場

成果と課題

- 「楷の木集会」を重ねるごとに、幼児たちが楽しみながら集会に参加するようになり、話を聞こうとしたり、寸劇を見て意味を知ろうとしたりする姿が見られるようになった。
- 論語を園生活に取り入れてから幼児が言葉に興味を持ち始めた。ことわざや類義語、対義語を友達同士で楽しんでいる姿が見られるようになった。また、遊びの中で「今女は画れり」等の論語を適切に使っている場面も見られる。家庭でも、園で覚えてきた論語を口にする子供もおり、保護者から「何を言っているのですか」と質問を受けることもあった。子供の姿から論語に対する保護者の意識も高まっている。
- 論語を取り入れた当初は、幼児教育に論語が馴染むのかどうかを案じていた職員もいたが、今では、職員同士が楽しみながら準備や打ち合わせを行っている。論語はよい職場の雰囲気づくりにも一役買っている。



事例② 「朝のつどいから大舞台へ」

活用場面

登園後の朝のつどい

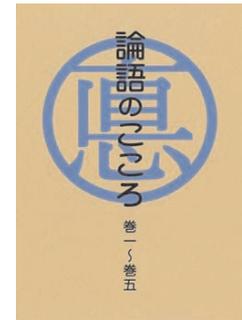
使用論語

「論語のこころ巻一～巻五」から選択

論語使用のねらい

論語の朗読は平成20年度から開始している。それ以前から小林一茶の俳句の暗唱を行っていたが、平成22年度からは山田方谷のこぼも加えて暗唱している。

論語は一見難しそうだが、読んでみると言葉が面白く、リズムがよいので、何度か練習すると唱えることができるようになる。園児には意味よりも、言葉のリズムを楽しみ、覚えたことに対する達成感を味わわせたい。



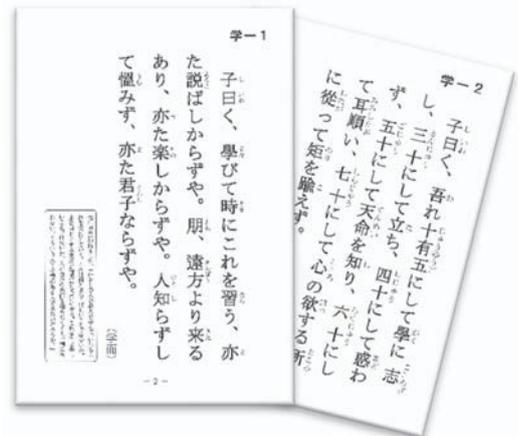
出版：株式会社登龍館
監修：岡田武彦

活用のポイント

- 登園後、朝のつどいの短い時間で、みんなで少しずつ実施する。
- 毎日、第1章句から朗読し、覚えることができれば、次の章句を追加していく。
- 遊びの一環として朗読を実施し、決して参加を強制しない。（自然に園児から参加するようになってくる。）
- 発表会で学習成果を保護者や地域の方へ披露することで、園児の自信につなげる。
- 言葉に対する感覚を養うことを目的に、論語以外にも小林一茶の俳句、山田方谷のこぼなど多くの言葉を扱う。

取組内容

学習活動	指導のポイント
<p>【朝のつどいの後半】</p> <p>1 「論語のこころ第一巻～第五巻」を提示する。</p> <p>2 第1章句から朗読</p>	<p>○「論語のこころ第一巻～第五巻」を提示することで、自然に教師の周りに集まり、正座し、朗読できるようにする。</p> <p>○正座が出来ない園児、集中できない園児はいるが、強制はしておらず、自然にできるように支援する。</p> <p>○保育士が、テキストの「論語のこころ」から1ページずつ読み上げ、みんなで朗読する。</p> <p>○毎日継続することによって、園児が自然と暗記できるようにする。</p>
<p>3 次の章句の追加</p>	<p>○1ページを覚えることができると、次のページを追加して朗読し、徐々に増やしていくようにする。</p>



成果と課題

○園児は論語のリズムが好きで、みんなで朗読することを楽しいと感じている。最初は論語をなかなか覚えることができなかつたが、毎朝、朗読を繰り返すことで、だんだん覚えることができるようになった。また、短時間での活動のため、だらだらすることもない。

○参観日等の様々な機会を発表する機会を設けているので、保護者や地域の方から褒められ、そのことが自信となり、達成感を味わっている。論語朗読の活動は、山田方谷のことは、小林一茶の俳句の暗唱でも活かされている。

○小学校に入学後、保護者の方からは、国語の授業で「言葉に対する抵抗がない」、「暗記することに抵抗がない」等の感想を聞いている。また、論語の朗読を始めた当初の園児が、中学生になっても家庭で論語について話題にしていると聞いた。現在、園児は論語の意味は理解していないが、いずれ思い出す時があり、生き方のヒントになることを期待している。

【発表会で園児が朗読する原稿】

学 論語のこころ

子曰く、學びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや。朋、遠方より来るあり、亦た樂しからずや。人知らずして慍みず、亦た君子ならずや。

子曰く、吾れ十有五にして學に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知り、六十にして耳順い、七十にして心の欲する所に從つて矩を踰えず。

孔子曰く、生まれながらにしてこれを知る者は上なり。學びてこれを知る者は次なり。困みてこれを學ぶは又た其の次なり。困みて學ばざるは、民斯れを下と爲す。

子曰く、古の學者は己の爲にし、今の學者は人の爲にす。

子曰く、吾れ嘗て終日食わず、終夜寝ねず、以て思ふ。益無し。學ぶに如かざるなり。

子曰く、學びて思わざれば則ち罔く、思いて學ばざれば則ち殆うし。

子曰く、黙してこれを識し、學びて厭わず、人を誨えて倦まず。何れか我れに有らんや。

子曰く、君子は食飽くを求むること無く、居安きを求むること無し。事に敏にして言に慎み、有道に就きて正す。學を好むと謂うべきのみ。

子曰く、君子は博く文を學び、これを約するに禮を以てせば、亦た以て畔かざるべし。

子曰く、賜や、女は予れを以て多く學びてこれを識る者と爲すか。

對えて曰く、然り。非なるか。曰く、非なり。予れは一以てこれを貫く。

孝

子曰く、弟子入りては則ち孝、出でては則ち弟、謹みて信、汎く衆を愛して仁に親しみ、行いて餘力あれば、則ち以て文を學べ。

孟武伯、孝を問う。子曰く、父母は唯だ其の疾をこれ憂う。

子曰く、父母在せば、遠く遊ばず。遊ぶこと必ず方あり。

子曰く、父母の年は知らざるべからざるなり。一は則ち以て喜び、一は則ち以て懼る。

子曰く、父母に事えては、幾くに諫む。志の從われざるを見ては、又た敬して違わず、勞しを怨みず。

【様々な場面での発表】

生活発表会で保護者や地域の方に向けて論語の朗読を発表する他、旧備中松山藩御茶屋が落成した際に、お茶屋で論語を朗読したり、「岡山方谷まつり 2015 特別フォーラム」において、文部科学大臣や知事の前で論語の朗読を発表をしたりしている。大舞台での発表の経験が、どんどん園児の意欲と自信を高めている。



【旧備中松山藩御茶屋で論語を朗読】



【保育園生活発表会 山田方谷のことば・論語の朗読】

2 小学校

事例③ 「日常の取組を道徳につなげる」

活用場面 道徳の時間（第1学年）

使用論語 ④「義^ぎを見て為^みざるは、勇^{ゆう}なきなり。」

論語使用のねらい

児童は学級の友達とは、いけないことは注意し合うことができる。しかし、上級生や中学生には、悪いことをしているところを見かけてもなかなか正しいことが言えない様子が見られる。

この実態から、道徳授業の展開後半に論語を取り入れ、自分の生活の中での勇気について見つめ直すきっかけとさせるとともに、今後の生活に論語の章句等を活かすようにさせたい。

活用のポイント

本実践以前に、寺子屋タイム(業前活動)を活用し、全校児童にこの章句を示し、自分の生活の中で勇気を出してよいと思うことができた経験、できなかった経験を振り返っていた。授業では、その時のことを思い出すとともに、寺子屋タイム以後の体験を発表することで、身近な「勇気」について考え、道徳的実践力を養うことを目的とした。要となる道徳の時間をより効果的に進める上で、本実践前に本章句に触れさせておくことが大切である。

取組内容

【主題名】 よいと思うことを（内容項目（1）－3）

【資料】 「みみずくとおつきさま」 出典「1年生のどうとく」文溪堂
「よいと思うことはすすんで」 出典「わたしたちの道徳」文部科学省

めあて	よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする態度を育てる。
学習活動	<input type="checkbox"/> 主な発問 ○教師の指導・支援 ☆予想される児童の反応
1 みみずくについて知る。	<p><input type="checkbox"/> みみずくという鳥を知っていますか。</p> <p>○みみずくという鳥について知らせ、関心を高める。 ☆ふくろうと似ている。 ☆夜に鳴いている。</p>
2 資料「みみずくとおつきさま」を読んで、もぐらの子供たちの気持ちを話し合う。	<p><input type="checkbox"/> もぐらの子供たちの気持ちを考えながら聞きましょう。</p> <p>○挿絵を大型テレビに映し出しながら、教師が音読することにより、児童が内容を把握しやすくする。</p>
○いたちがやって来て、先生もぐらにとびついた時	<p><input type="checkbox"/> いたちが先生もぐらに飛びついたとき、もぐらの子供たちはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○もぐらたちの気持ちを探っていくことで、悪いことを注意しようという気持ちに共感させる。 ☆せんせいが心配だ。 ☆こわいけれど、助けよう。 ☆よくないことは、注意したほうがよい。 ☆やめてくれるかな。</p>

<p>◎みみずくが、いたちをにらみつけた時</p>	<p>☆こわいよ、にげたい。</p> <p>みみずくが、「らんぼうはやめろよ。」といたちをにらみつけた時、もぐらの子供たちはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○相手が強そうで言いづらくても、注意したみみずくに共感できるようにする。</p> <p>☆こわくないのかな。みみずくはすごいな。</p> <p>☆いけないことはいけないときちんと言おう。</p>
<p>○おつきさまが「えらかった。」と言った時</p>	<p>おつきさまが「えらかった。」と言った時、もぐらの子供たちはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○よいと思うことを進んで行き、認められたときの気持ちに気付かせる。</p> <p>☆正しいことを、勇気を出して言うことが大切なんだ。</p> <p>☆みんなでがんばってよかった。</p> <p>☆みみずくの勇気を見習いたい。</p>
<p>3 勇気とは何かを考える。</p>	<p>「義」の論語を覚えていますか。どんな意味だったでしょう。</p> <p>○以前に習った「義」の章句「義を見て為ざるは勇なきなり」の意味を想起させる。</p> <p>☆悪いことを見付けても知らん顔するのは勇気がない。</p> <p>☆いけないことはいけないと言うことです。</p> <p>☆悪いことを注意するのは勇気がある。止められる人が勇者。</p>
<p>4 自分の生活を振り返る。</p>	<p>そうですね。正しいと思うことを、力を出してするのを勇気があるというのでしたね。みんなで声を出して論語を唱えましょう。</p> <p>○みんなで一斉に唱えることにより、「勇気」のイメージを心にとどめられるようにする。</p> <p>よいことだと思い、勇気を出してしたことはありますか。その時どんな気持ちになりましたか。</p> <p>○勇気をもってできた体験やその時の気持ちを「わたしたちの道徳」に書き込むようにする。</p> <p>☆廊下を走っていた友達に「いけないよ」と言えた。注意できてよかった。</p> <p>☆けんかしていて「だめ」と言ったら、「わかった」とやめてくれたので嬉しかった。</p> <p>○体験も経験もない児童には、これからこうしたいということを書くように声掛けをし、よいことと悪いことを区別し、よいと思うことを進んで行おうとする意欲につなげる。</p>

児童の感想

- ・〇〇くんがろうかをはしっていたので、ちゅういしました。ちゅういしてよかったです。
- ・〇〇くんに、だめ、といたら、わかった、とやめてくれて、よかったです。
- ・「ぎ」があんまりできていないけど、こんどからはできるようにしたいです。
- ・どうとくのじかんに「ぎ」をかんがえました。ずっとおぼえておきたいです。
- ・ぼくは、どうとくのじかんに「ぎ」のことばをおもいだしました。「ぎをみてせざるはゆうなきなり」がすきです。

板 書 計 画

みみずくとおつきさま
もぐらたちのきもちをかんがえよう

わたしたちのどうとく
P.37
できたよ!と思うことやそのときのきもち

義ぎを見てみ為せざるは、勇ゆうなきなり。

場面絵 ③

- ・ うれしいことをゆうきをだしていうことがたいせつなんだ。
- ・ みんなでがんばってよかった。
- ・ みみずくのゆうきをみならいたい。

場面絵 ②

- ・ おつきさまが「えらかった」といったとき
- ・ うれしいことをはげしくいけないうちとのおう。

場面絵 ①

- ・ みみずくがいたちをにらみつけたとき
- ・ みみずくはこわくないのかな。
- ・ みみずくはすごいな。
- ・ いけないことはいけないうちとのおう。

場面絵 ①

- ・ いたちがせんせいもぐらにとびついたとき
- ・ こわいよう。
- ・ やめてくれるかな。
- ・ よくないことはちゅういしたほうがよい。



成 果 と 課 題

○論語については、朝や帰りの会の時に繰り返し話題にしている。また、寺子屋タイムで論語を扱った後、自分を振り返ってノートに書き留める活動を積み重ねてきた。そのため、道徳の時間の価値に関連した章句「義を見て為ざるは勇なきなり」や「義」を思い起こした発言が見られた。

○今年度本校では、寺子屋タイム(業前活動の時間)に月ごとにテーマを掲げた章句を紹介している。「仁」「義」「礼」「知」「信」など、人格形成や人間関係づくりに関するテーマの章句を学んでいる。論語での、「仁」は「親切・思いやり」、「義」は「正義・勇氣」、「礼」は「礼儀・節度」など道徳との関連価値が多い。そのため道徳の時間の導入や展開後半、終末等で、論語に触れ、論語を通してよりよい生き方について考えさせることは、道徳的实践力を高めるうえで効果的であった。

○教室に月のテーマの章句を掲示し、折に触れ朗読するなど各学級や校内に論語に親しむ環境を整えている。また、論語と道徳の時間を関連させたり、自己の生き方を振り返らせる際に、「仁」「義」「礼」などのフラッシュカードを準備したりしている。価値項目に合わせてカードを提示することで、寺子屋タイムで学んだことやノートに書いたことを思い出したり、振り返ったりする手立てにもなった。

寺子屋タイム

毎日業前に実施している「寺子屋タイム」では、テーマに沿って論語を選出し、担当職員が児童に紹介している。毎週金曜日の朝は、全校で毎月の論語を朗読する。その章句を教室や廊下に掲示するとともに、児童のノートにも貼っている。児童はノートに貼った論語に関する気付きや振り返りを自由に書き、校長がコメントを入れている。児童のノートは全校児童に紹介したり、学校だよりに掲載したりしている。



2 小学校

事例④ 「自分のお気に入りの論語を見つけよう」

活用場面

国語科（第5学年）

使用論語

- ③ 「こうげんれいしよく 巧言令色、すく 鮮なじん し仁。」
- ⑥ 「まな 学んでおも 思わざれば則ちすなち 罔し。思おも うてまな 学ばざれば則ちすなち 殆あや うし。」
- ⑦ 「ふる 故きをたず 温ねてあた 新しきをし 知る、もつ 以てし 師とな 為るべし。」
- ⑳ 「ちから 力足らざる者は、ちゆうどう 中道にしてはい 廃す。今女はいまなんじ 画かぎ れり。」
- ㉑ 「ぎ 義を見てみ 為ざるは、ゆう 勇なきなり。」
- ㉒ 「あやま 過ちてあらた 改めざる、是れをあやま 過ちとい 謂う。」

論語使用のねらい

児童は、これまでの学習において、俳句を通して伝統的な短詩型に出会ってきている。また、標語やスローガンづくりなどの活動を通して、五七五の形式やリズムにも親しんできている。しかし、論語については、ほとんどの児童が「知らない」「聞いたことがない」と答えており、あまり親しみを感じていない。

そこで、本単元の学習では、まず論語を声に出して読み、言葉のリズムを感じさせたい。意味を考えたり、自分たちの生活と結び付けたりすることで、論語の世界を身近に感じさせたい。

活用のポイント

- 教科書に掲載されている論語は、
子曰はく、「己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ。」と。
子曰はく、「過ちて改めざる、是を過ちと謂ふ。」と。
の二句である。『論語章句集』を活用することで、他にもたくさんの論語があることを知り、自分の生活に身近なものを選ぶことができる。
- 「NHK for school」の番組と『論語章句集』を併用することで、論語に対しての理解をより短時間で深めることができるようにする。

取組内容

【単元名】

「声に出して楽しもう 古典の世界（二）」（光村図書）

【単元目標】

漢文特有の言い回しやリズムを楽しみながら声に出して読むとともに、文章の内容の大体を知ることができる。

【単元について】

児童はこれまで、俳句、短歌、古文の学習を重ねてきたが、本単元で取り上げるのは漢文である。漢文は本来、漢字だけで書かれているものであるが、小学生は書き下し文で学習する。

この単元で取り上げる「論語」は、中国の思想家・孔子と弟子たちの問答をまとめた書であり、その思想は、日本人の生き方に大きな影響を与えている。ここでは、児童の音読になじみ、内容の面からも出会わせておきたいものを取り上げている。

【単元の指導計画】

時	主な学習活動	指導のポイント
1	1 論語について知り、本時の課題を確認する。 2 NHK番組を視聴し、孔子や論語について話し合う。 3 番組に出てきた「論語」の音読を楽しむ。 4 取り上げた「論語」の意味を確認する。 5 本時のまとめをする。	○論語について知っていることを出し合い、論語に対して興味を持たせるようにする。 ○孔子やその教えについて確認し、関心を深めるようにする。 ○繰り返し声に出すことで、言い回しやリズムを楽しみながら読めるようにする。 ○分からない言葉の意味を確かめ、大体の内容を理解できるようにする。
2	1 前時の「論語」を声に出して読み、意味を思い起こす。 2 本時の課題を確認する。 3 6つの「論語」を、リズムを楽しみながら声に出して読む。 4 班ごとに、「論語」の意味を話し合う。 5 班で話し合った意味を、全体の場で発表し、さらに話し合う。 6 本時のまとめをする。	○本時は、6つの「論語」を取り上げ、班の友達と考えを出し合いながら、それぞれの論語の意味を考えることを確認する。 ○繰り返し声に出すことで、言い回しやリズムを楽しみながら読めるようにする。 ○分からない言葉についても、辞書を引いたり、漢字から想像したりして意味を考えることができるようにする。 ○意味を確認した後に、自分の生活のどんな場面で使うことができるかを話題にし、「論語」を身近に感じることができるようになる。
課外	・自分の好きな「論語」を選んで、その理由を書き、友達と紹介し合う。	○児童のこれまでの経験や考えが表れている理由を全体に紹介し、「論語」が生き方につながっていることに気付かせる。

【授業の概略（第2時）】

主な学習活動	主な児童の反応
1 前時の「論語」を声を出して読み、意味を思い起こし、課題を確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 論語の意味を考え、孔子の考え方について自分の意見を書こう。 </div>	
2 6つの「論語」を、リズムを楽しみながら声に出して読む。	「力足らざる者は、中道にして廃す。今女は画れり。」 「故きを温ねて新しきを知る、以て師と為るべし。」 「義を見て為ざるは、勇なきなり。」 「過ちて改めざる、是れを過ちと謂う。」 「巧言令色、鮮なし仁。」 「学んで思わざれば則ち罔し。思うて学ばざれば則ち殆うし。」

3 班ごとに、「論語」の意味を話し合い、考えた意味を全体の場で発表し合う。

「力足らざる者は、中道にして廃す。今女は画れり。」

C：廃すって、なんかこわれるってこと？

C：じゃあ、中道って何かな。途中の道ってことかな。

C：なんじって女の人のこと？

T：女という字を使っているけど、読みの音で考えたらいいよ。なんじってというのは、あなたとかお前って意味なんだよ。

C：あ～なんか、聞いたことある。

班の考え『力のない者は途中で終わる。今お前の強さは限られている。』

「故きを温ねて新しきを知る、以て師と為るべし。」

C：これは聞いたことがあるよ。

C：温故知新って言うんで。

C：ああ～、本当だ。漢字が4つ入ってる。

班の考え『昔のことを知って、新しいことを発見して、そのことを生かしていけば、自分も得する。』

「義を見て為ざるは、勇なきなり。」

C：義って何かな。

C：正義の義？

C：礼儀の義？

C：良いことってことかな。

班の考え『良いことを見てしないことは、勇気がない。』

『他人のことをまねして、自分で考えずにやるのは、勇気がない。』

「過ちて改めざる、是れを過ちと謂う。」

C：過ちって悪いことよな。

C：まちがってことかも…。

班の考え『悪いことをして、直さなければ、悪いことが返ってくる。』

「巧言令色、鮮なし仁。」

C：これが一番難しいよな。

C：巧みの言葉？何かな？

C：鮮なしって、どういう意味？

C：鮮やかかって、きれいってこと？

C：すくないって、そのままかな。

班の考え『上手な言葉をいう人は、今すくない。』

「学んで思わざれば則ち罔し。思うて学ばざれば則ち殆うし。」

C：罔しと殆うしが分からんよなあ。

C：どっちかが正しくて、どっちかが正しくないってことじゃないかな。

C：殆うしって、あやしいってこと？

班の考え『学んで思ったことや考えたことは正しい。思っただけで学んだことは正しくない。』

(正しい意味を確かめた後)

T：孔子の言っていることから、孔子はどんな考え方をしていた、どんな人だったと思いますか。

C：正しいことを教えてくれる人だったと思います。

C：思いやりについてのことが結構あって、優しい人だと思います。

4 本時のまとめをする。

C : していいこと、いけないことをちゃんと教えていると思います。
C : 迷っている弟子に合うアドバイスをしてくれる人だと思います。
C : 「今女は画れり」みたいに、弟子に厳しいことも言っていると思います。

【気に入った論語とその理由】

「其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ。」

・ 言いやすいし、意味もとてもいいなと思ったから。

「力足らざる者は、中道にして廃す。今女は画れり。」

・ わたしは、すぐにあきらめたりするので、この論語を見てすぐにあきらめたりしないようにしたいと思ったから。

「故きを温ねて新しきを知る、以て師と為るべし。」

・ 学んだことを活かすことができるというのがよくて、私もそうしていこうと思ったから。

「義を見て為ざるは、勇なきなり。」

・ ぼくも勇気が出ないことがあって、この論語を見ると元気が出るから。

「過ちて改めざる、是れを過ちと謂う。」

・ この論語を覚えておくと、生活に役に立ちそうだから。
・ 今まで、違うことに気付いても、それを改めないことが少しあったから。

「巧言令色、鮮な仁。」

・ とても言いやすく覚えられるし、それに誠実にふるまうことが思いやりというのも、いい言葉だなと思ったから。

「学んで思わざれば則ち罔し。思うて学ばざれば則ち殆うし。」

・ 日頃の生活の参考になるから。

【児童の感想】

- ・ 論語は、ふだんの生活にも役に立ったり、助かったりするので、これからの生活で使っていきたいです。
- ・ みんなで意味を考えるのが楽しかったです。まだ勉強していない論語も知りたいです。
- ・ 2500年も前に書かれたものが、今も残っていて、生活に使われているというのがすごいと思いました。

成果と課題

- 本単元の計画を、閑谷学校や藩校で行われていた「素読」「講義」「会読・輪読」「質問」の流れを意識して組んだ。初めに、声を出して文字を読み、文章をたどる「素読」を取り入れ、範読で正確な読み方を示した。次に、本来なら「講義」で、教師からの講義のもとに内容を理解して身に付ける学習となるが、お互いに問題を持ち出したり、討論をし合ったり、解決しきれないところは仲間とともに考えたりする協同学習の「会読・輪読」を取り入れた。その後「講義」として、教員が正しい意味を説明するようにした。「意味をみんなで考えることが楽しかった」という学習後の子供たちの感想から、藩校で行われていたこの学習形態は、学びたいという意欲をもって主体的に学習を進めることができる学び方であると再確認した。
- 単元のはじめに、NHK教育番組「おはなしクラシック」を視聴した。この番組は10分間で、孔子と弟子の問答を劇化しており、効果音や照明効果、小道具を交えて語り聞かせるため、児童も論語の世界に入りやすかった。また、台詞は、1回目は書き下し文で、2回目に現代語訳文で進められるため、1回目を視聴したところで画面を一時停止し、何を話しているのかを想像させた後に、2回目を視聴することができ、興味をもって考えることができた。

3 中学校

事例⑤ 「『現代版論語』をつくろう」

活用場面 国語（第3学年）

使用論語 「学校教育で活用できる論語章句集」から生徒が選択

論語使用のねらい

生徒は、前向きに国語の学習に取り組んでいるが、古典学習に苦手意識を持った生徒も多い。そのような生徒にとっても、今に生きる古典としての論語の持つ普遍的な魅力を感じることで、自分自身の生活を振り返り、これからの生き方を考えるきっかけとさせたい。また、自分の考えを文章にまとめたり、発表したりすることが苦手な生徒もいる。論語を参考にしながら中学校生活のまとめとして、後輩に贈る言葉「現代版論語」をつくるという目標のもと、お互いの言葉を交流し合い、自分の考えを広げたり、深めたりさせたい。

活用のポイント

- 学校教育で活用できる章句集P. 7以降の「伝えたいこと」を参考に、孔子の章句に込めた思いを読み取りながら、それを自分自身の生活場面と重ね合わせさせる。
- 「学ぶときに大切なこと」「人間として大切なこと」など、項目を示すことで、考えるポイントを絞らせる。

取組内容

【単元名】 学びて時にこれを習ふ — 「論語」から（光村図書 国語3）

【計画】

時	学 習 活 動
1	漢文独特の言い回しに注意して音読し、読み慣れる。
2	それぞれの言葉がどのような考え方を示しているか、脚注を参考にして読み取る。
3	章句集を活用し、多くの章句の中から共感できる孔子の考え方をを見つける。
4	卒業にあたり、友達や後輩に伝えたい思いを「現代版論語」にする。（本時）
5	現代に生きる古今東西の名言を図書室やTPCで調べ、自分の考えを深める。

【本時案】

ねらい	友達が後輩に伝えたい思いを「現代版論語」として言葉にすることができる。	
学習活動	指導・支援上の配慮事項	準備物・評価規準等
1 本時の目標を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の生徒が、見通しを持って学習を進めていくことができるように、目標や本時の流れ、評価項目を示す。 ○ 互いの顔を見ながら発表したり、気軽に相談したりしやすいように席をコの字型に配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板 ・タブレットPC
友達が後輩に伝えたい思いを現代版論語として言葉にしよう。		
2 前時に選んだ、自分が共感できる孔子の	○ (pingpong)アプリを使って自分が選んだ章句を知らせる。	

<p>考え方が表れた章句を紹介し合う。</p>	<p>○ いくつかの章句について、選んだ理由を発表させる。</p>	
<p>3 友達や後輩に伝えたい思いを「現代版論語」にする。</p>	<p>○ 今までの自分の生活を振り返り、何が大切と考えるかを適切な言葉にさせる。</p>	<p>・プリント</p>
	<p>○ 考える上での参考となるように、以下の観点を示す。</p>	<p>(評価)</p>
	<p>・人間として大切なこと</p>	<p>自分の中学校生活を振り返り、勉強や友達についての思いを適切な言葉にしている。</p>
	<p>・学ぶ時に大切なこと</p>	
	<p>・人間関係で大切なこと</p>	
	<p>・部活動で大切なこと</p>	
<p>4 自分の考えた「現代版論語」を発表する。</p>	<p>○ 考えが持てない生徒に対しては、自分の思いに近い論語を探すよう助言する。</p>	
	<p>○ 自分のつくった「現代版論語」を(DropBox)に提出させ、全員で共有した後、発表させる。</p>	<p>・タブレットPC</p>
<p>5 本時の学習を振り返り、次時の学習内容について知る。</p>	<p>○ 本時の学習のまとめと振り返りを行い、次時の学習内容を説明する。</p>	<p>・電子黒板</p>

成果と課題

「論語」を参考にして「現代版論語」をつくるという単元を設定した。生徒は、「論語」や孔子という人物の名前について聞いたことがあっても、その内容にまで踏み込んだ学習は初めてであった。まず、教科書に掲載された章句を学習した後、論語章句集の一つ一つの章句を読んでいった。その中から自分が共感できる章句を選び、その理由を発表させたが、生徒の大半は、それぞれの観点から違う章句を選んでいった。どの章句も現代の中学生の心に触れるものであったようであり、その後、その章句を参考に自分の中学校生活のまとめとして、友達や後輩に贈る言葉「現代版論語」をつくったり、互いの言葉を交流し合ったりした。孔子の言葉に刺激され、生徒たちも、思い思いに考えを巡らせながら、勉強や部活動で大切なこと、人間として大切なことなどを個性あふれる言葉にしていた。最後に、自分の作った言葉を、その背景、経験、伝えたい思いなどとともに発表した。オリジナルな言葉だけに、少々はにかんではいたが、皆、堂々と発表し、友達の拍手をもらうことで、満足感を味わうことができた。

これからの自分の生き方を考える上で、「論語」と自分自身の今の生活を結びつけるこの単元はとても有効であったと感じた。

生徒が共感した章句とその理由

- ②④ 「^{すみや}速かならんと^{ほつ}欲する^な母かれ。^{しょうり}小利を見ること^な母かれ。・・・」
あせらず、急がず、欲にとらわれず、未来を見据えて、少しずつ堅実に前進していくことは、人間にとってとても大切なことだと思ったから。
- ④⑩ 「^ぎ義を見て^せ為ざるは、^{ゆう}勇なきなり。」
正義だと知りながらそれから逃げるのはいけないと僕も思うから。
- ④④ 「^{あやま}過ちて^{あらた}改めざる、^こ是れを^{あやま}過ちと^い謂う。」
間違いは誰にでもあるものだから、それを直して正していくことが大事である。しかし、それを直視しないで何度も過ちを繰り返すのはとても愚かだと思ったから。

生徒の作った「現代版論語」

人間関係で大切なこと

「偽らざる思い、隠さず本音を語れ。」
「物事を多面的にとらえよ。」

人間として大切なこと

「人を敬う気持ちを忘れるな。」
「人を思い、人を傷つせず、人を大切にすること。」

学ぶときに大切なこと

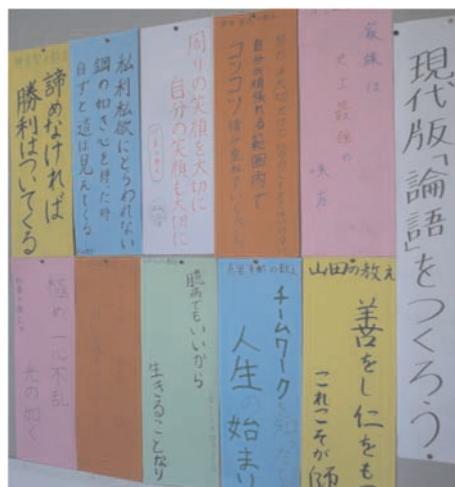
「学ぶことは今の自分以上になること。」
「目標を低くしない、目標は高く持ち続けよう。」
「最後まで前を向き、学ぶ意欲をもち続けた者が最大の勝者なり。」
「苦手なことに背を向けないこと。」
「己の好奇心をかきたてよ。」

部活動で大切なこと

「己の力を磨けども、仁なき者は勝てん。」



【授業の様子】



【掲示した短冊】

<p>「 」とは? 」</p> <p>(言葉をつくった背景・経験・伝えたいこと)</p>	<p>「生きるのに大切なこと」は?</p> <p>(言葉をつくった背景・経験・伝えたいこと)</p>	<p>「学ぶときに大切なこと」は?</p> <p>(言葉をつくった背景・経験・伝えたいこと)</p>	<p>現代版「論語」</p> <p>名前</p> <p>の教え</p>
--	--	--	-------------------------------------

【授業で使用したワークシート】

事例⑥ 「ことだま百選」

活用場面 特別活動（学級活動・生徒集会）

使用論語 「学校教育で活用できる論語章句集」から生徒が選択

論語使用のねらい

素直で明るく前向きに物事に取り組むことができるが、人前で発表することを苦手としている生徒が多い。そこで、集会活動などの場を活用し、発表機会を多く設定し、発表の経験を重ねることで、堂々とした態度で発表できるようにさせたい。また、古今東西の名言の一つとして、「論語」を声に出して読むことで、論語の持つリズム感や独特の言い回しを楽しみ、より多くの章句を身近に感じさせ、自身の生活に活かせるようにさせたい。

活用のポイント

- 姿勢を正し、発声の仕方に気を付け、声を合わせ、朗誦をする。
- 論語だけでなく、古今東西の名文・名句を活用する。

取組内容

各クラスで暗唱する言葉を選び、「朝の会」で全員が声を揃えて音読し、暗唱できるようにする。毎月1～3の「ことだま」の暗唱を目指し、暗唱した言葉は、生徒集会で披露する。

【生徒への投げかけ】

日本では、声に出した言葉には不思議な力が宿ると考えられていました。それを『ことだま』と言います。東京都杉並区天沼中学校の藤川章校長先生は、「昔から、よい言葉を発すればよいことが起こり、不吉な言葉を発すれば凶事が起こる、と信じられてきました。つまり、よい言葉を発すれば人間関係により影響を与える、ということ」と述べ、天沼中学校の先生方と、古今東西の名文・名句を数多く集められました。そうして選定されたのが「ことだま百選」です。「こうした、先人たちのすばらしい知恵や感性が詰まった作品（言葉）に触れ、暗唱することで、人生を豊かにする教養とともに、人間関係を育むためのよい言葉が身につくはず」と、生徒たち全員が暗唱に取り組むという活動を続けられています。

今年度は、本校でも、その「ことだま百選」に挑戦することにしました。

【集会での発表の様子】



【選んだ名文・名句例】

山田方谷のことば

「人の備中を問ふに對ふ。……」
「財を用ゐる。……」

論語

「子曰く、われ十有五にして……」
①9 「子曰く、君子は和して……」
③9 「子曰く、君子に九思あり。……」

「風林火山」「日本国憲法」など

【「ことだま」選定のための参考図書】

『ことだま百選』	東京都杉並区立天沼中学校	講談社
『学校教育で活用できる論語章句集』	岡山県教育委員会	岡山県教育庁義務教育課
『山田方谷のことば―素読用』	山田方谷に学ぶ会	登龍館
『山田方谷の詩』	宮原信	明德出版社

生徒の感想

- ・本番では声を合わせて名文や名句を言い、言い終わった後はやりきった感がある。
- ・朝から大きな声を出すと元気が出る。気持ちがすっきりする。気が引き締まる。気合いが入る。
- ・「ことだま百選」でいろいろな言葉と出会えた。
- ・他の学年のことだまを聞いて「こんな言葉もあるのか」と勉強になる。
- ・みんなと息を合わせるので、チームワークがよくなった。

成果と課題

- 生徒の表現力向上をめざし、表現活動の場を積極的に設けた。「ことだま」は、その中心として、主に学級において毎日取り組んだ。それぞれのクラスが選んだ「ことだま」は、山田方谷のことばや日本国憲法前文、魯迅の「故郷」の一節、歌舞伎のセリフなど、バラエティー豊かで、毎月の集会での発表が楽しみであった。古今東西の名言の一つとして、「論語」も登場した。毎朝、声に出して読むことで、論語の持つリズム感や独特の言い回しを楽しみ、章句の一つ一つを身近に感じる事ができたようである。
- クラス全員が、姿勢を正し、発声の仕方に気を付け、声を合わせ、暗唱をする。それを繰り返すことで、声を出すこと、人前で発表することへの抵抗感は減り、むしろ、それを楽しめるようになってきたように思われる。自分のクラスの「ことだま」だけでなく、別のクラスの選んだ「ことだま」の意味を知りたいという意見も多いので、言葉だけでなくその解説をしたり、掲示したりすることにも取り組んでいきたい。

事例⑦ 「道徳の時間に論語を活かす」

活用場面 道徳の時間（第2学年）

使用論語 ①「仁を問う。子曰く、人を愛す。」

論語使用のねらい

生徒は道徳の時間にしっかりと登場人物の心情を想像し、自分のこととして考えを持つことができるが、友達の考えを聞き、自分の考えを広げたり、深めたりすることができにくい。そこで、道徳の時間の導入に論語を活用し、授業でねらう価値に迫ったり、自分の考えを広げたりするきっかけとさせたい。

活用のポイント

- 道徳の授業の導入部分で論語を紹介することによって、本時の学習に対する意欲を高める。
- 論語の掲示は、あくまで考えるきっかけにしたり、考えを広げたりするために使用するためのものであって、押しつけにならないようにするため、論語の解釈にしばられない。

取組内容

【主題名】 温かい人間愛（内容項目（2）－2）

【ねらい】 人間は関わり合いの中で生きていることを自覚し、思いやりの心を持って行動できる道徳的態度を育成する。

【資料】 軽いやさしさ 出典「中学生の道徳」廣済堂あかつき
 温かい人間愛と思いやりの心 出典「私たちの道徳」文部科学省

【展開】

学習活動	教師の発問・予想される生徒の反応
1 孔子にとっての「仁」すなわち「思いやり」は何なのかを想像させ、本時のめあてを確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">仁を問う。子曰く、()</div> <p>「仁を問う。子曰く、人を愛す。」の「人を愛す」の部分空欄にして提示する。</p> <p>○（弟子の樊遲が孔子先生に、「仁とは何ですか」と聞きました。仁とは簡単にいうと、思いやりのことです。孔子は、弟子に聞かれて何と答えたのでしょうか。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の立場になって考える ・相手の気持ちを考える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思いやりとは、どういうものか考えよう。</div>	
2 資料を読み、話し合う。 ○若者たちが老婦人の店に通う理由を考える。 ○老婦人と店番をする若者の気持ちについて考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">若者たちが老婦人の店をひいきにしているのはなぜだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしなので、元気なのか心配。 ・学生にとって故郷のお婆ちゃんと重なって見えて気になるから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">捻挫をして店を開いている時の老婦人と、店番をする若者の気持ちについて、グループで話し合ってみよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">グループで話し合ったことについて発表しよう。</div> <p>【老婦人の気持ち】</p>

<p>◎「暇つぶしですよ」と言った若者の気持ちを考える。</p> <p>3 日常生活での思いやりについて考える。</p> <p>4 思いやりについて考えたことや思ったことを書く。</p> <p>5 空欄にしていた部分に入れる言葉を伝え、教師の話を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そろそろ店を閉めないといけなかな。 ・お客に気を遣わせて申し訳ない。 <p>【若者の気持ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で大丈夫か心配。 ・お婆ちゃんに、余計な気を遣わせたくない。 <p>若者は、なぜ「暇つぶしですよ」と言ったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お婆ちゃんに気を遣わせたくない。 ・お婆ちゃんに余計なことを考えて欲しくない。 ・お婆ちゃんに負担をかけさせたくない。 <p>○ 「私たちの道徳」P. 55 の絵を見て、こんな場面に出会った時、自分ならどうするか考え、発表する。</p> <p>【場面 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気で入院している友達のことを気遣って、疲れないようにする。 <p>【場面 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の将来にとってためになることを考える。 <p>○ 「思いやり」についての自分なりの考えを「私たちの道徳」P. 56 に記入する。</p> <p>○ (みなさんから思いやりとは何かについてたくさん意見を出してもらいました。実際には孔子は、仁を問うた弟子に『思いやりとは人を愛すること』と言いました。みなさんにとっての思いやりとはどんなことでしょうか。今日のお話や孔子の言葉をもとに考えてみましょう。)</p>
--	---

【生徒が考えた「思いやり」の例】

- ・本当の思いやりとは、感謝されるためにやるというような恩着せがましいものではないと思う。
- ・このお話のように人の立場を考えて行動することは大事だと感じた。
- ・孔子先生が言っているように、人を愛することこそが思いやりだと思う。
- ・困っている人がいたら助け合える、それが思いやりだと思う。

【授業を終えての生徒の感想】

- ・やっぱり愛は大切である。人を愛せたら幸せになれそうだ。
- ・孔子の教えが今の私たちにも当てはまると知って驚いた。
- ・人には愛が不可欠である。孔子の教えを大切にしたい。
- ・昔と今、思いやりという言葉の意味は変わっていないということが分かった。
- ・孔子先生の言葉には、意味深い言葉が多い。とても面白い。

成果と課題

論語が弟子の悩みに答えるといった問答の形式をとっていることや、論語の内容が人の生き方を説いたものが多いことから、道徳の授業でも扱いやすく、孔子の言葉は生徒の心にも響いていた。論語を提示することで孔子の考えを押し付けることになってしまうのではないかという懸念もあったため、導入や本時のまとめで生徒に提示することにした。その結果、孔子の言葉を一つの考えとして受け入れ、さらに自分の考えを深めることができたと感じた。

しかし、突然、論語を道徳で掲示すると「なぜ論語なのか」と感じる生徒もいたため、取り入れる際には日頃から様々な著名人の言葉を多くの場面で紹介しておく必要があると考える。

4 高等学校

事例⑧ 「課題解決の根拠に論語を活用」

活用場面

国語（古典研究）

使用論語

- ⑰ 「徳は孤ならず、必らず鄰あり。」
○ 「子曰く、忠告して善を以て之を導く。不可なれば、則ち止む。
自ら辱めらるること無かれ。」
⑱ 「君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず。」

論語使用のねらい

古典研究では、特に応用的な課題に対して、解決の見通しが持てず、課題に積極的に取り組むことが難しい生徒が多い。そこで、補助資料として本校生徒にとってなじみの深い論語の章句を提示し、解決の糸口とさせることで、課題に積極的に取り組ませたい。

活用のポイント

- 課題問題に即した章句を教師が選択し、生徒に示すようにする。
- 章句を提示する際には、訳も同時に示し、ポイントの解説を行うようにする。
 - 例 ⑰ (訳) 孤立を恐れるんじゃないよ。正しいことをしていれば、必ず同調者が現れるからね。
 - 例 ○ (訳) 過ちがあった時には、心から忠告してよい方向へ導くべきだが、聞き入れられない場合には、無理強いをしないで見守ることだ。喧嘩になって互いに侮辱し合うようになっては元も子もないからね。
 - 例 ⑱ (訳) 独立独歩の者は、人と協調しても付和雷同しないものだ。自分を見失っている小物たちは、すぐに群れるが協調することはしないものさ。

取組内容

吉田兼好の屈折した心情（自分と同じ考え《気心》の人はいない。だから、その人と付き合う時、どうしても相手に合わせがちになる。その時、自分の心を押し殺して、相手に合わせているので、心も通じることなく孤独感に苛まれる。）を踏まえ、「友」との関係を保ち、かつ自らの「孤独」を癒やすためにはどうすればよいかをグループワークで考える。

【単元名】 「同じ心ならん人と」（徒然草）

教材：「国語」古文読本（明治書院）

【目標】 語句を確認し、内容を把握するとともに、「友との関係を保ち、かつ自らの孤独を癒やすためにはどうすればよいか」という課題を、協力しながら解決することができる。

【指導計画】 「基本的事項の確認」（1時間）

○音読、本文書写、語句などの確認を行い、内容把握に取り組む。

「応用的事項の確認」（1時間）

○課題問題にグループワークで取り組む。

【本時の展開】（第2時）

学習活動	指導上の留意点
1. 本時の目標と手順を再確認する。	○目標を確認する際、前時の内容の確認を行い、本時の展開に活かすようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 友との関係を保ち、かつ自らの孤独を癒やすためにはどうすればよいかグループワークで考えをまとめよう。 </div>	
<p>【個人ワーク】</p> 2. ヒントとなる論語の章句を写し、内容を吟味した後、自分の考えをまとめる。 <p>【グループワーク】</p> 3. グループ（3～4人）になり、個々の意見を発表し合い、グループの意見をまとめる。 4. グループの代表者が、グループの意見を板書する。 5. 他グループの意見から自分の考えを深める。 6. 本字の学習を振り返る。	<p>○内容説明をする際には、 「自分をしっかり持つこと」 「よい距離感」 「独立独歩の者は、協力し合い、付和雷同しない」 がポイントであることに気付かせる。</p> <p>○机間巡視をしながら、論語の各章句の内容のポイントを繰り返し確認する。また、意見の方向性が定まらないグループには、一番共感できる考えを中心に意見をまとめるよう助言する。</p> <p>【グループの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見はしっかり持つておくが、友に合わせてみることも大切。 ・深入りしないくらいの、良い距離感が大切。 ・自分の意見を持って相手に伝えるべき。 ・自分の意見をしっかりと持って他の人と協調する。 ・自分の心の内を話す。 ・自分の意見を言い、理解してもらおう。相手の意見も理解する。 <p>○生徒の意見は最大限尊重し、意見をまとめることができたことを称賛する。</p> <p>○振り返りシートに、本時で学んだことや自分の考えの変化について記入させる。</p>

【振り返りシートの記入例】

<ul style="list-style-type: none"> ・友とのよい関係のつくり方について、しっかりと、考えることができた。 ・独りぼっちでいるような気がする事のない「友」ができたらしいなと思った。 ・論語の意味を理解し、考えを深めることができた。 ・自分の意思をしっかりと持ち、相手と協調することが大切なんだと思った。広く浅く。相手を不快な思いにさせないように、相手に合わせることも大切だと思った。

成果と課題

難しい課題であったが、生徒にとってこれまで様々な場面で触れている論語を提示し、根拠とさせることで、生徒は課題問題に積極的に取り組むことができた。また、論語の意味をしっかりと考えさせることができ、生徒の考えを深めさせることができた。ただし、論語の章句の内容に即した解答となりやすいので、グループワークでの指示が大切であると感じた。

【生徒の授業用プリントの抜粋】

第三学年 古典研究 授業プリント⑩

「同じ心ならん人と」(徒然草)

(省略)

問い四 本文中で作者は屈折した心情を述べているが、「友」との関係を保ち、かつ自

らの「孤独」を癒やすためにはどうすればよいと考えるか。意見を書け。

(生徒の解答例)

グループでの話し合い

【参考とした論語】

③ 「子曰く、徳は孤ならず。必ず隣あり。」

↓孤独を恐れるんじゃないよ。正しいことをしていれば、必ず同調者が現れるからね。

③ 「子曰く、忠告して善を以て之を導く。不可なれば、則ち止む。自ら辱めらるること無かれ。」

↓過ちがあつた時には、心からよい方向へ導くべきだが、聞き入れられない場合には、無理強いをしないで見守ることだ。喧嘩になって、互いに侮辱し合うようになるとは元も子もない。

③ 「子曰く、君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず。」

↓独立独歩の者は、人と協調しても付和雷同しないものだ。自分を見失っている人たちは、すぐに群れるが、協調しないものだ。

【グループでまとめた意見】

自分の意見をしっかりと持って、他の人と協調する。

事例⑨ 「論語の自作テキストを作成し、地元小・中学校を訪問」

活用場面 総合的な学習の時間

使用論語 いろいろな書籍から生徒が選択

【参考図書】

「子供が喜ぶ『論語』」	致知出版社	瀬戸謙介
「楽しい論語塾」	致知出版社	安岡定子
「声に出して読みたい論語」	草思社	齋藤孝
「孔子全書論語」	明德出版社	吹野安
「はじめての論語」	講談社α新書	安岡定子
「論語」	明治書院	吉田賢抗
「論語」	笠間書院	吹野安
「論語」	東洋文庫	土田健次郎
「論語」	角川ソフィア文庫	加地伸行
「論語」	岩波文庫	金谷治
「論語」	岩波書店	宮崎市定
「論語」	講談社	加地伸行
「論語力」	ちくま新書	齋藤孝
「学校教育で活用できる論語章句集」	岡山県教育委員会	
「論語百章」	岡山県立和気閑谷高等学校	

論語使用のねらい

人前で話すことが苦手で、自信が持てない生徒が多い。そのため、地域でなじみの深い論語を活用し、テキスト「声に出して読みたい論語百章」を作成していく中で、自ら考え、行動する姿勢を育てるとともに、小・中学校や地域との交流を通して、自尊心を高め、郷土愛を育成していきたい。

活用のポイント

- 主体的に生徒自らがいろいろな図書から論語の章句を選んでいくことを徹底する。
- 論語の解釈は生徒が行うが、勝手な解釈ではなく、探究を踏まえたものとさせる。

取組内容

多くの論語の章句の中から、これからも大切にしたい、未来に伝えたい章句を自ら選び、自作テキスト「声に出して読みたい論語百章」を作成する。完成後は、地元の小・中学校や地域を訪問し、自作テキストを用いた論語朗読を披露する。

【目標】 ○探究学習を通じて自分の人間力（7つの力）を鍛える

- ・自分を理解するチカラ
- ・コミュニケーション力
- ・職業とつなぐチカラ
- ・チームワーク力
- ・考えるチカラ
- ・自立するチカラ
- ・行動するチカラ

【探究学習の計画】

時	中心となる活動
1	好きな論語を選ぶ
2	論語と自分との関わりを考える
3	閑谷学校の先生の講義
4	閑谷学校の先生への質問
5	閑谷学校の先生の講義
6	講義をもとにグループで論語探求
7	出前朗読の係を決める
8	発表用ポスター作成の企画
9	来年の論語手帳づくり
10	発表用ポスター作成の資料収集
11	刈ヅカルの章句集作成の準備
12	まとめ作成
13	パワーポイント、ポスター作成
14	パワーポイント、ポスター作成
15	パワーポイント、ポスター作成
16	発表会・代表者の決定
17	全体発表
18	全体発表
19	ポスター発表
20	振り返り・まとめ



【中学校訪問の様子】

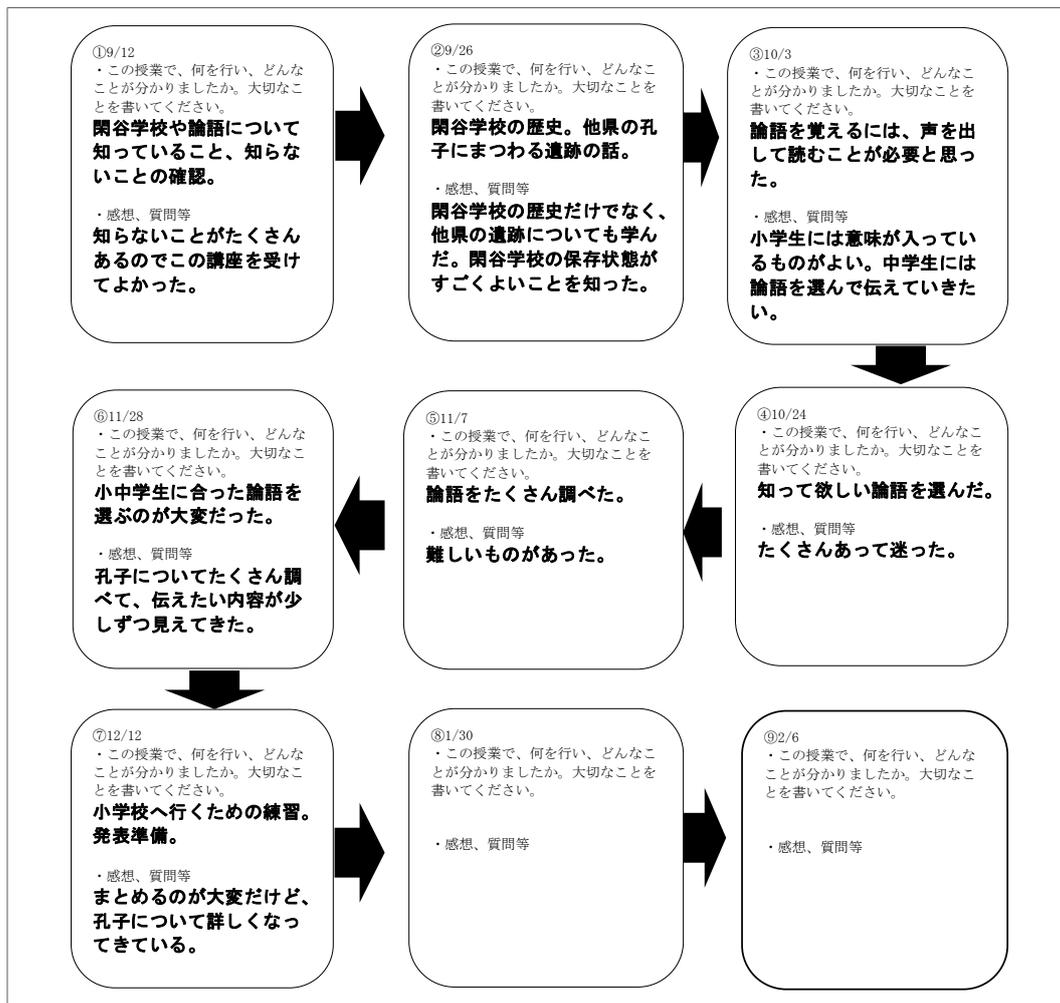
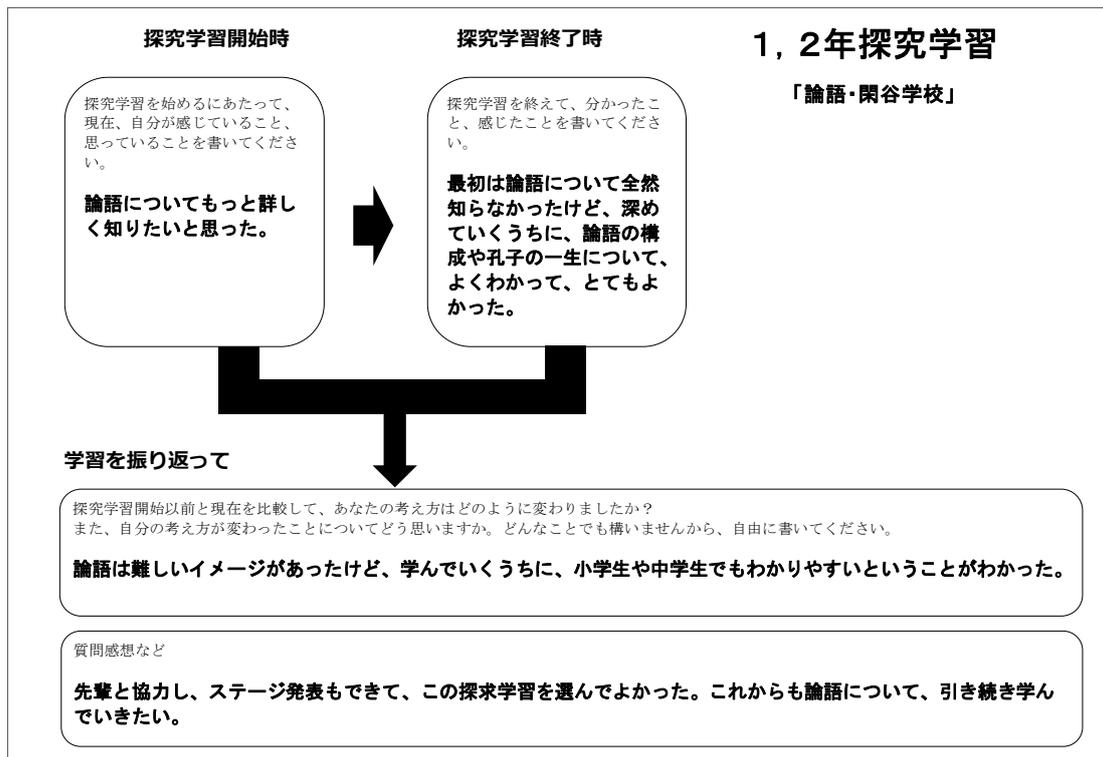
生徒の感想

- ・興味のなさそうな子にも興味を持ってもらえるように説明を工夫しようと思った。
- ・人前で話すことが多い活動だったので大変だったが、苦手なことに挑戦できて良かった。
- ・自分の考え方に論語の精神が少しずつ入ってきたように感じる。よい様になってきたと思う。
- ・ポスターを作るとき「己の欲せざる所、人に施すこと勿れ」を意識して協力できたように思う。これからも自分のことばかりではなく、相手のことを考えるようにしたい。
- ・自分の好きな論語とその論語が生活の中でどのように役立っているか等、「自分と論語の関わり」を言えるようになってきた。

成果と課題

- 7つの力に関するアンケートから、「進んでリーダーシップをとる」「自分から発言、意見を述べる」の項目で向上が見られ、それぞれの項目で「以前よりもできるようになった」と感じている生徒が増加している。
- 訪問先の児童生徒から「先輩の熱心な姿を見て、論語を身近なものとして考えることができるようになった」などの感想を受け取り、生徒の自己肯定感が高まったり、郷土愛や相手を思いやる心などに関する意識が向上した。

【生徒の振り返りシート】



論語学習プラスワン

学校の日頃の教育活動の中に論語をプラスし、指導の充実を図っている事例を紹介します。

論語カルタ 論語カルタ（備前商工会議所発行を使用）

「難しい言葉だな」と思う低学年の子供も、慣れるにつれてカードが取れるようになり、「おもしろかった。」「またやりたい。」などの声が聞かれ、論語を楽しみながら学んでいる。



【異学年交流活動の縦割り班の遊びの中で論語かるたを実施】



【テストの後などの余剰時間を利用して学級でカルタ大会を実施】

帰りの会で言葉遊び

短い時間で、短く、リズムカルな章句を、友達と一緒に唱えることで、論語を身近に感じることができている。言葉の意味が分からない章句もあるが、「言葉遊び」として覚え、友達と一緒に唱えることを楽しむ姿が見られている。



朝の学習での素読

1年生の朝の活動(8:20~8:35)で、毎週1回、校長が論語の素読指導を行っている。その時々クラスの实態や課題に合わせて章句を選び、子供の日常生活と関連づけて説明することで、少しでも子供にとって論語が身近なものになるように工夫している。

【事例 第8回実践】

⑪「子曰わく、性、相い近し。習えば、相い遠し。」	
意味	先生が言われた。「人の生まれつきは、みんなよく似たものです。しかし、その後、どんなことをどんなふうに勉強していくかによって、みんなに違いができるんだよ。」
解説	みなさんは、今、六歳と七歳ですね。生まれた時は、みなさん似ていて、あまり大きな違いはありません。でも、孔子が言っているように、これからの長い一生の中で、みなさんがどんなことに興味を持ち、どんなことを勉強していくかによって、その道が大きく違ってきます。校長先生は、みなさんがどんな風に大きくなっていくのか、今からとっても楽しみにしています。

【事例 第11回実践】

⑬「子曰わく、徳は孤ならず、必ず隣あり。」	
意味	先生が言われた。「自分のため、人のためを思い、賢く行動する人は、決して独りぼっちにはなりません。きっと同じ思いで行動する人がいますよ。」
解説	みなさんは、一生懸命に勉強していますか。友達に優しくしていますか。へこたれてないですか。お家でのお手伝いなど、みんなのためになることができているか。これらができれば、あなたのことを分かってくれる人が、きっとあなたの周りに出てきてくれます。目立つことは大切ではないのです。さっき校長先生が言ったことができれば、人はちゃんと見てくれますよ。

【事例 第30回実践】

⑳「子曰わく、譬えば山を為るが如し。未だ一簣を成さざるも、止むは吾が止むなり。」	
意味	先生が言われた。「何かをやり遂げるといのは、例えば、山をつくるのに似ている。あと一杯だけ土を運んで積み上げれば、山ができ上がるのに、もし、最後の一杯を運ぶことを止めれば、山は出来上がらない。しかしそれは、自分が止めたのであって、人のせいではありません。」
解説	みなさんは、小学校に入学して十ヶ月が過ぎました。勉強や遊びなどいろんなことがたくさんできるようになりました。宿題だって自分ですすんでやっていることでしょうか。そうですね、それがいいのです。宿題をすることも、その宿題を忘れないで学校に持ってくることも、それは全部あなた自信の責任です。おうちの人の責任ではありません。自分のことは決して人のせいにするのではなく、自分でできるようにならなくてはなりません。みなさんには、もうそれができるはずですよ。

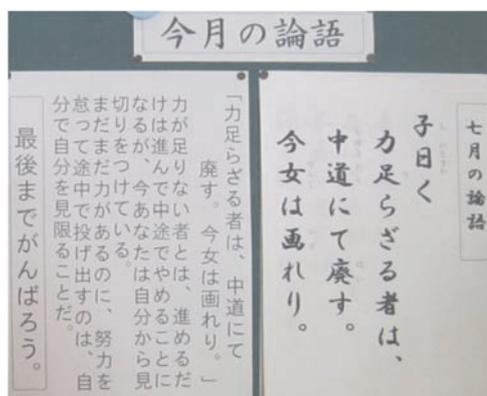
全校朝礼での校長の取組①（教員の思いが児童の心に響いた事例）

月初めの月曜日、全校朝礼において、校長が『今月の論語』を児童に提示している。素読した後、内容について具体例を示しながら説明し、全員で朗読する。その後、一ヶ月間、毎日朝の会において朗読を続けている。

取り上げる内容は様々であるが、季節や行事、学校で取り組んで欲しいと考える内容と合致した章句を選んでいく。

【水泳大会に向け、児童にやる気を出させた事例】

今年の夏、A児は、水泳シーズン当初、25mを泳ぎ切ることさえも難しかった。そういった時期に『力足らざる者は、中道にして廃す。今女は画れり。』を提示し、毎朝の朗読を続けていった。合わせて学級担任による同様の題材を選んだ道徳の時間における指導を行った。平素から児童自身のやる気を起こさせる関わりを続けてきた結果、十分に泳ぐことさえままならぬ状態であったそのA児が、シーズンの終わり頃、より遠くまで泳ごうというめあてを持って挑戦し、300mを泳ぎ切った。その直後、「自分の限界を決めず、これまで少しずつ高い目標を決めてきた。今日はもう少し行けたのではと思う。」という本人からの感想が聞かれた。校長の思いが、担任を通じて児童に伝わった結果ではないかと思う。



全校朝礼での校長の取組②（江戸時代の寺子屋に倣って正座で素読体験）

学校経営全体の中での校長自らが行う徳育として論語を活用している。校長講話の中で、「論語」の章句を取り上げて話をし、その章句を全校児童で朗読している。



朝の朝礼では、江戸時代の寺子屋に倣って、正座で素読する体験を取り入れている。閑谷学校の講堂学習のように、正座をして背筋を伸ばし、心を整えてから、お腹の底から声を出すことで、活動に集中できている。

取り上げた章句は、玄関・廊下に掲示し、常に児童の目に触れるようにしている。さらに、集会等での様子を学校だよりやホームページに掲載し紹介している。

論語学習プラスワン

中学校生活残り半年の目標を決めよう！

運動会や文化祭などの大きな行事を終えると、一つの大きな目標を達成し、しばらく、学習に対する意欲が低下する傾向にある。そこで、次の目標を持ってない時期に、論語「④速すみやかならんと欲ほつすることな母しょうりかれ。小利みを見ることな母すみかれ。速ほつやかならんと欲すなわすれば則たつち達せず。小利しょうりを見れば則みち大事すなわ成らず。」を活用し、次の目標を立て、目標や理想に向かってあきらめずに最後までやり遂げようとする意欲を高める。

【教師の投げかけ】

子夏という弟子が、莒父という町の長官として赴任するので、孔子に政治の道を尋ねました。子夏に対して孔子は何と答えたのでしょうか。（論語章句集から④の論語を提示）

孔子が実際に言ったことは、「速く成績を上げようと功績を焦るな。また目の前の小さい利益に囚われてはいけない。何事も速く成績を上げようと思わぬ手落ち、手違いを生じてしまいかえって目標を成就できないし、目先の小さい利益に囚われると大きな目標を達成することができないものだぞ」と忠告したそうです。

人はつい急ぎすぎたり、目先の利益に目を奪われたりするものです。しっかり目標を決めて、それに向かって焦らず、一步一步前進することが大切です。大きな行事が終わった今だからこそ、孔子が弟子に言った言葉のように、もう一度自分の目標に立ち戻って、一步一步前進していきましょう。

【生徒の目標】

- ・3年生のテストも後少しなので、日々の授業や、家での復習を大切にして、計画的にテスト勉強に取り組んでいきたい。
- ・3月に行われる課題研究発表会に向けて、一日一日を大切にしながら、課題研究の論文作成を行う。あせらず、じっくり取り組みたい。
- ・目の前の高校入試のことだけでなく、高校での部活動も頑張りたいので、少しは運動しながら、運動と勉強を両立させていきたい。

論語学習プラスワン

学校全体で取り組む論語朗誦

日本遺産「閑谷学校」の伝統継承を図るため、全校集会において、全員が正座、黙想を行った後、一斉に論語朗誦を行います。



論語学習プラスワン

配布物・掲示物への活用

学級通信や配布物、教室の掲示物の一部に、論語の章句を活用することで、教員のメッセージを児童・生徒に印象づけることができます。

子曰、學而時習之、不亦説乎

子曰(い)わく、学(ま)んぶて時にこれを習(な)う、亦(また)説(よろこ)ばしからずや。

●現代語訳
孔子がおっしゃいました、
「学んだことを時に復習するのはより理解が深まり楽しい事だ。」

●英訳文
Confucius said,
"To learn and to review those you learned are pleasure."

【掲示物】

11月行事予定表

11月 2014

日	曜	学 校 関 係	日 番
1	土	学力推移調査	
2	日	ノートルダム杯 ライオン杯	
3	月	文化の日	
30	日		

11月は、各学年とも校外行事が計画されています。安全第一に、そして実りのある取り組みをしていきましょう。来月からはどうしても選択が大きなウェイトを占めるようになります。企画、提案、点検、修正すべきことは、早めに進めておいてください。11月の論語は「これ知る者はこれ好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。」好きこそもの上手なれ！ 興味を持って取り組みましょう。

授業日数 18日

【行事予定（一部省略）】

夏休みの宿題について

(1) 課題プリント…答え合わせをして8月18日に提出。
都合でその日に出せない人は、それよりも前に提出すること。

(2) 市村アイデア賞…8月18日に提出。記入もれのないようにしましょう。

(3) 自由研究レポート…後期夏季特別授業の期間内に提出。

まいにち



コツコツ



せにゃいけん



◎今月の論語◎

子曰わく、譬(たと)えば山を為(つく)るが如(ごと)し。未(いま)だ一簣(いっき)を成(な)さざるも、止(や)むは吾(わ)が止(と)むなり。譬(たと)えば地を平(なら)かにするが如(ごと)し。一簣(いっき)を覆(ふく)すと雖(いえど)も、進(すす)むは吾(わ)が住(す)むなり。

現代語訳：孔子がおっしゃいました、学問の道というのは例えるならば山を作る作業みたいなものだ。もう少しで完成という時に止めてしまったとしたら、他の誰でも無い自分が悪いのだ。例えるならば地面をならす作業みたいなものだ。たったバケツ一杯分の土をならしたとしても、他の誰でも無い自分の努力の成果なのだ。

【配布物：夏休みの宿題について（一部省略）】

始業式の講話

(校長式辞で論語の一節を紹介し、生徒のやる気を引き出します)

いよいよ平成〇〇年度が始まりました。生徒の皆さんとは半月ほど前の修了式で会って以来ですが、このわずかな間にずいぶん成長したように思われます。

昔、大学で教員免許を取るときに教育心理学を履修しました。そのとき、「readiness」という用語と「timeliness」という用語を習いました。readiness というのは、ready ということばの名詞形であることはすぐ分かると思います。ある事柄を教わるべく準備ができていう状態を言います。timeliness というのは、timely ということばの名詞形であることもすぐ分かると思います。教育を受けるのにふさわしい時期であることを言います。

ある事柄を学ぶには、そのための予備知識など、準備が必要であることは当然です。例えば、数学で微分・積分を学ぶために、文字式の取扱いなど、様々な予備的な知識や技能がないとどうにもならないことは当然です。一方、あることを学ぶには、それにふさわしい時期があるのも明らかです。ある言語の発音が母語を話す人と同レベルに身に付くのはかなり幼い時期からの学習が必要なようすし、逆に、ある程度抽象的な思考は、あまり幼い子供たちに求めても無理です。自分自身の人生を振り返ってみても、大学生のころまではおもしろいように何でも記憶できましたが、最近は、さっぱりだめです。逆に、中学生、高校生の頃からは、段々抽象的な思考ができるようになってきたのが実感で分かります。

ここに集まっている皆さんの中には、誕生日の関係で14歳から18歳までの人がいることと思います。論語の「吾十有五而志於学 われじゅうゆうごにしてがくにこころざす」からきた志学、15歳を中心にその前後の年代です。皆さんは、新しい知識も砂に水がしみこむように、どんどん我が物にしていけるし、抽象的、論理的思考もしっかりできる年代です。その意味では、学びに対する readiness も timeliness もどちらも備わったすばらしい年代ということになります。

中国の晋の時代に陶淵明という有名な詩人がいます。彼の詩の一節に「盛年重ねて来たらず 一日 再びは農なり難し 時に及んでまさに勉励すべし 歳月は人を待たず」というものがあります。ある本の訳によれば、「若いときは二度とは来ない。一日に朝は二度とやってこない。学ぶべき時を失うことなく、つとめ励むべきである。年月はどんどん過ぎ去って、人を待ってくれないのだから。」とあります。勉励ということばは、つとめ励むという意味で、本来は少し異なる意味のようですが、一般的には、先に述べたように解釈されています。皆さんが学びにおける人生の黄金時代である今を生かして、勉学に励んでくれるよう期待しています。

明日には、新入生を迎え入れて、学校はまた活気を取り戻します。最高学年の3年生として、中堅学年の2年生として、それぞれ自分自身の学校生活を充実させるとともに、学校全体が充実していくように、先輩として力を尽くしてくれるよう期待しています。

以上で、始業式の式辞といたします。

おわりに

平成25年度、人を敬う気持ちや規範意識など「心の教育」や「生き方教育」の充実を図るため論語学習研究委員会がスタートしました。最初の二年間は、なぜ論語学習が必要なのか、論語学習にあたってどのような場面でどのような章句を用いるのが効果的であるかについて検討しました。そして、最終年である平成27年度は、論語学習を実施するにあたっての具体的な指導手順について研究し、論語学習実践事例集を作成することができました。

『論語』といえば古めかしい印象を受けますが、生き方の本質を突いている言葉が多いため、誰の目にも新鮮に映ります。また、表現が簡潔でリズム感に富んでいるため何度も声に出して読むことによって心地よさを感じることができます。おそらく、子供たちは「論語学習は意外と楽しいね。」という印象を持つのではないかと思います。論語学習は、知識だけではだめ、それをどう生きる知恵に転化するかが問われます。できるだけ具体的に幼児・児童・生徒の日々の生活と関連づけて指導することが必要です。論語の理解もあまり背伸びをせず、発達段階に応じた解釈で結構。何度も音読し、様々な場面でその言葉が口をついて出るようになればしめたものです。

ここに示した実践事例を参考に、幼児・児童・生徒が自らの生き方を振り返り、よりよく生きようという気持ちになるような論語学習を行っていただきたいと思います。そのためには、学校園の実態に合うように少し手直しをして実践されることをお勧めします。学校や学年によって状況は異なりますが、あまり肩肘をはらず、楽しみながら『論語』に接することが第一です。先生方の創意工夫で、論語の活用方法は無限に広がっていくように思います。

平成27年度論語学習研究委員会委員長 國友 道一

論語学習研究委員会（平成27年度）

國友 道一	県青少年教育センター閑谷学校 所長
橋本 卓士	新見市立上市小学校 校長
宗兼 美江	備前市立日生幼稚園 園長
早瀬 尚子	備前市立日生東小学校 指導教諭
杉山 雄泰	県立倉敷天城中学校 教諭
村下 善志恵	新見市立大佐中学校 教諭
福田 浩司	県立和気閑谷高等学校 教諭

事例掲載学校園

高梁中央保育園	備前市立日生幼稚園	新見市立新砥小学校	新見市立上市小学校
備前市立日生東小学校	備前市立三国小学校	矢掛町立中川小学校	就実小学校
新見市立大佐中学校	県立倉敷天城中学校	県立岡山操山中学校	県立和気閑谷高等学校

